
IS ~飛べない翼~

紅茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS→飛べない翼→

【著者名】

N1606N

【作者名】

紅茶

【あらすじ】

もともと女の子に近い容姿なのに

ISにまで女の子として扱われてしまった

東雲すばる。

イレギュラーなだけにどこに転ぶか自分でも分からぬ！
すばるはいつにどうなつてしまふのか！

一話 全然関係ないけどチーがまつて美味しいよね（前書き）

どうも！初めまして。

紅茶です！

初めてで、かなーり駄文ですが読んでくれるとありがとうございます！

一話 全然関係ないけどチーがまつて美味しいよね

チヨンチヨン…

「んう・・・」

小鳥のさえずりと木漏れ日の明るさに田舎を覚ます。

「ふあああ・・・眠い・・・とりあえず支度しなくちゃや・・・」

眠い田舎をじすりながらも顔を洗おうと洗面所に行く。

「ふう・・・こんなもんか・・・」

着替え、学校へ行く準備などを終えて一息ついていると、携帯に着信がある。

なんだかうつと思つてみてみるとEVA学園の文字が -

「おひとつと・・・はいもしもし?」

「おはよう東雲すばる君今日から君はEVA学園に転入してもううが
大丈夫かな?」

抑揚のない淡々とした声、その声の中、織斑千冬は自分の調子を聞く。

「ああ、はい大丈夫ですよ。でもまさか僕がEVAを動かせるとは思
いませんでしたね・・・はは・・・」

そう、実は先日藍越学園に入学試験を受けに行ひとしたときに間
違つてEVA学園の方に行ってしまつたのだ。

そのときに置いてあつた打鉄、つちがねに目を引かれ、起動することなんて無いから触つてみよつと思つた瞬間に、打鉄の動かし方、性質、機動性その他もろもろが頭の中に流れ込んであたふたしてくるといつもIIS学園の人たちに見つかってしまい急遽IIS学園に入学するとなつたのである。

まあでも入学手続きやらで途中に入ることになるんだけどねえ・・・ふとそんな事を考えてみると千冬さんの声が聞こえる。

「ははっ動かせた理由がIISの誤認だからな・・・くくく・・・」「もう！笑わないでくださいよー」つちだつてびっくりしてるんですからー！」

何を言おうこの自分東雲すばるは世から容姿が女の子に間違われるほど女の子に似ていいのだ。

そのせいか打鉄に触つた時に流れてきた情報のに 操縦者・性別 女 と書かれており思いつきりはあ！？と叫んでしまつたほどであった。

俗にいう男の娘といひやつだ。

自慢になんねえ・・・

頭を抱えているとまたも千冬さんの声が聞こえる。

「まあ気にするな。そういう、もうすぐそっちに迎えが行くと思うからそれに乗つてこー」

「はーいわかりました。ではまた後ほど」

ピンポン

電話を切ると同時に家のチャイムがなる。

「はーい今出ますー」

ガチャッと扉を開いたその先に居たのが、おっぱい爆弾」と山田真耶先生が出てきた。

「どうも～一年一組の副担任山田真耶です～早速行きましょうか」
「はい」

「口二口しながら言つて山田先生正直言つてかわいい。
年上なのにかわいいが当てはまるつていうのは貴重な気がする・・・
」

容姿が女の子な癖を考えることは男の子なすばる君なのでした。

そんな事を考えつつ山田先生についていき20分後IIS学園に着いた。

荷物などは粗方IIS学園に送つておいたので大丈夫だわ。

「ではこれから先はこの学園で暮らすことになりますが、ほとんど
女の子しかいないので気をつけくださいね？」

ふふっと笑いながら言つてくる姿はかわいい（何度もだ！
何回言つてもかわいいもんはかわいいんだよー
ごほんごほん。

考えていたことを悟られなつように平然とした表情で答える。

「あはは。大丈夫ですよ。」

さつき山田先生が言つていたほとんどの子にとっては、IISは基
本的に女人にしか乗れないからだ。
なのに僕が乗れているのはIISが僕の性別を女と誤認するとこうい
ラクルなことが起こつてしまつたからだ。

確かに僕は女の子と間違われるけど……機械にまで間違われると
は……ショック。

「やつですか！では行きましょう！」

その後、山田先生と学園で必要な事を聞いていたらいつの間にか自分がクラスの前に立っていた

自分のクラス一年一組、そあの織斑一夏がいる教室だ。
織斑一夏といつのは織斑千冬の弟で世界で始めて”男”でEISを動かした人だ。

同じ男とこいつともあつて仲良くなればいいと思つている。

「最初は第一印象が大事……よし！」

中で一通り終わつたのか僕を呼ぶ声が聞こえる。

「では、転校生を紹介しますー入ってきてくださいー」

ガラガラと音を立てて教室に入る。

「では四〇四紹介をしてくださいー」

うう・・・緊張する・・・ほんとに女の子ばかりだよも・・・
でもー最初が肝心ー行くぞー！

「どうもー初めてー東雲しゅばるとこいますー！」

・・・囁んだー——————

うわわわわわわわわわわ（〃）

（〃）（〃）（〃）（〃）（〃）（〃）

今の僕顔真っ赤だ！

絶対そこだ！

もうしよう……と考へてると助けが入る

「えーっとすばる君は今とてつもなく緊張しているようです。監さん仲良くしてあげてくださいね」

あ、後すばる君は男の子ですので間違えないでくださいね。

ふう・・・とりあえず山田先生には後で何か持つていこうかなり助
かつた・・・

「改めて、東雲すばるです。よく女の子と間違えられますが、男の子です。」ここに僕と同じ男の人�이 있다고 들었다는 거예요. 그게···」

「さ？」

嫌な予感がして耳をふさぐ。

! ! ! ! !

予感的中

うるせえ

かんだこと言つたやつ出て来い半殺しだ。

そんな事を考へてゐるといつゝ間に入つてきたのか僕の後ろに千冬さ

んが立っていた。

「あー、静かにしろお前ら。」こつキレたら怖いぞ？」

そう千冬さん不敵な笑みを見せながら言ひとみんな静かになる。
失礼な。別に切れても怖くないよ。

ただ僕が切れると教室が半壊になるだけだよまつたく。

「あー東雲、座る席は織斑の隣空いてるからそこへ座れ。」

「わかりました」

そつこつて一夏の隣に座る。

「よひしへね織斑君」

そつはにかんで一夏に話しかける。

「お、おひよひしへな東雲。俺のことばー一夏でいいぜ」

「ん、わかつた僕のことばー一夏」

なぜか顔を赤くして答える一夏に疑問を覚えつつ挨拶する。
なぜか一名の女子の視線が痛かった。

なんでだろう・・・?

一話 全然関係ないけどチーがまつて美味しいよね（後書き）

小説つて難しいですね・・・。

皆さんがとても上手に書けている分気落ちしますが、寧ろ開き直つて投稿しているので気にならない！

最後に。

別に感想とか待つて無いけどくれるつていうなら貰つてあげないことも無いんだからねつー（すいませんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1606z/>

IS~飛べない翼~

2011年12月5日20時54分発行